

# 子どもが開きたくなるキャリア・パスポートにするために

令和7年11月 義務教育課



## 対話的に活用できるように計画しよう

キャリア教育の要である学級活動の役割を明確にすることで、子どもたちが、**教師との対話や子ども同士の対話を通して**自己理解を深めたり、将来の生き方を考えたりする活動を行います。



## A 校種間で確実に引き継ごう

子どもたち一人ひとりが「自分の生き方を考えていくアイテム」という**活用の目的を、校種を超えて確認・共有**し、一人ひとりの自己実現を支援します。

小学校では、憧れの連鎖が生まれるよう、「ふるさと山口」のいいところを見付ける活動を継続的に行ってきました。



小学校教員

では中学校では、「ふるさと山口」と自己の在り方生き方について、小学校の活動を基に考えることから始めます。

## 「ふるさと山口の創り手」の育成

## 自己の在り方生き方を考える児童生徒の育成

# 「やまぐちPRIDE」の醸成

—ふるさと山口の未来を創る心意気—



## D 振り返りを蓄積しよう

授業や体験活動、行事等の振り返りを計画的に蓄積していくことで、子どもたちが、学ぶことと自己の将来や**地域とのつながり**に気付くための材料を集めます。



## C 学校や地域の実態に合わせた活用を考えよう

**学校・地域連携カリキュラム**等を基に具体的な活用方法を見直すことで、地域の方の**思いや願い**にふれる取組の際の振り返りでの活用や、中学校区で育成をめざす子どもたちの姿をイメージして工夫・改善を行います。

体験活動を通して、地域の方の「ふるさと山口」に対する**思いや願い**を知ることができたよ。



学んだことから、わたしはこれからどんな生き方をしたいのかを考えてみよう。